

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和7年10月末現在）

今月の重点活動

■ほうれんそう 古川小学校でほうれんそう出前授業を実施

10月16日、ふるさと給食に関連した授業として、古川小学校3年生57名を対象にほうれんそうに関する出前授業を実施した。

授業では、ほうれんそうの栽培から販売までの流れについて、児童が楽しみながら理解できるようクイズ形式で説明した。ほうれんそう生産者からは、自身のほ場の様子や栽培の工夫について説明があり、児童は実物のほうれんそうに触れながら、農業の現場を体感する機会となった。

当日のふるさと給食では、講師の生産者が育てたほうれんそうを使用した「ほうれん草のごまドレサラダ」が提供され、児童は出前授業で学んだ食材を実際に味わうことで、食と農のつながりを実感した。

農業普及課では、今後も地域農業の理解促進を目的とした取り組みを継続支援していく。



【出前授業の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■青年農業士 青年農業士会飛騨支部がファーマーズミーティングを開催

10月20日、青年農業士連絡協議会飛騨支部が主催でファーマーズミーティングが開催された。

今回は、青年農業士や指導農業士だけではなく、高山市や飛騨市の商工会議所をはじめ、布俣県議会議員（農林委員会委員長）にも参加いただき、飛騨地域の将来像について活発な意見交換がされた。参加者からは「飛騨地域のおいしい食材を積極的に情報発信していこう」といった意見が多く出され、飛騨地域の魅力を再認識し、今以上にPRを強化していく必要性が共有された。

農業普及課では、青年農業士連絡協議会をはじめ、担い手リーダー活動を支援するとともに、今後も飛騨地域の担い手育成に取り組んでいく。



【ファーマーズミーティングの様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■水稻 湛水直播栽培の実証ほで刈取りを実施！

将来の担い手不足を見据え、育苗管理や苗箱運搬を省力できる湛水直播栽培の実証を、今年度からJAひだ・飛騨市・メーカーなどと連携し開始した。

5月12日に播種を行い、10月7日に関係者が見守る中、収穫作業が実施された。収量・品質ともに満足のいく結果となり、生産者をはじめ、関係者から実証は大成功との評価を得た。

まだ単年度の結果のため、農業普及課では、プロジェクトメンバーと連携し、次年度も実証を継続し、湛水直播栽培の飛騨地域での実用性等を検証していく。



【収穫作業の様子】
(写真：JAひだ提供)

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■夏秋トマト 自動かん水に関する研修会を開催～高山トマト部会青年部夜間研修会～

10月30日、旧高山地域の若手トマト生産者が所属する高山トマト部会青年部において、夜間情報交換会が開催された。当日は、生産者およびJAひだ等の関係者約20名が出席し、「自動かん水」技術に関する情報交換が実施された。自動かん水技術は、収量増加に伴う作業負担の増加や人手不足といった課題に対し、省力化を図る有効な手段の1つである。さらに、少量ずつ複数回に分けて天候に応じたかん水が可能となることで、猛暑による乾燥や集中豪雨による過湿など、かん水の問題改善にもつながることが期待されている。

本研修会では、農業普及課より昨年度実施した自動かん水装置の導入状況やほ場条件に関するアンケート結果を紹介し、導入可能なほ場条件について説明を行った。また、飛騨地域は中山間地であり、電源や安定した水源の確保が難しいほ場も多いことから、自動かん水装置メーカーの担当者を講師として招き、各ほ場の条件に応じた設備の選定方法や導入コストについて具体的な事例を交えて紹介がされた。参加者からは「非常に興味があるので、導入方法について今後も情報提供や相談にのってほしい」との声が寄せられ、関心の高さがうかがえた。

農業普及課では、今後も省力化や高温対策につながる技術の情報提供および導入支援を通じて、地域の持続可能なトマト生産を支援していく。



【夜間研修会の様子】